

小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式

1 一括質問一括答弁方式

② 一問一答方式

質問件名 学校生活における児童・生徒のマスク着用について

質問要旨 (初めに質問全体の趣旨、次に具体的な質問内容を項目別に記入してください)

コロナ禍となって 2 年半が経過し、日本の社会のなかでのマスク着用はもはや標準装備化している現状となっている。この間小平市では全国に先駆けてマスクが出来ない方や子どもたちへの理解や配慮を求める請願も提出され、小平市議会において全会一致で可決されたが、結果としてマスクの着用を個人の意思で決定できる状況には至っていない。

3 年目となる今年の夏は猛暑が続き、熱中症などマスク着用のリスクについてマスコミでもたびたび取り上げられてきた。市内の小・中学校においても児童・生徒の心身の健康を守るために登下校時や運動の際はマスクを外すよう指導するとのことだったが、結果として夏休みに入る前や真夏の部活の登下校時にマスクを外している児童・生徒はほとんど見られなかった。

いよいよ 2 学期が始まり、運動会や音楽祭などの行事も開催されるなか、児童・生徒がマスクを着用し密な状況を避けて人との距離を求められる状況はいつまで続くのか。さらに今後気温の低下とともに熱中症のリスクが下がることで、またマスクの着用を強く求められる学校生活に戻るのではないかと一部の保護者からは不安の声も挙がっている。今後の市の感染症対策に対する見解を問う。

- 1, 新学期における、児童・生徒に対するマスク着用についての指導内容は。
- 2, 状況によりマスクを外すよう指導しても着用を続けている児童・生徒の反応について、市教育委員会はどう捉えているか。
- 3, 黙食指導について、今後の方針をどのように考えているか。
- 4, 意図的に全員でマスクを外す時間を作るよう試みている学校がある自治体もあるが、市教育委員会としてそのような情報の収集や取組の検討をしている状況はあるか。
- 5, 市教育委員会として、どのような状況になれば、学校内でのマスクの着用が自覚症状がある場合に任意で使用する咳エチケットとしての利用に戻れると思っているか、見解は。

上記のとおり、小平市議会会議規則第 57 条第 2 項により通告します。

令和 4 年 8 月 29 日 小平市議会議長 殿 小平市議会議員 氏名 山浦 まゆみ

受付番号【 】

25	24	23	22

-(/)